



まちのシンボル「ひと・まち・ゆめ」

わが町 志津南 NEWS

志津南ホームページ
http://waka-kusa.net/

発行
志津南地区自治連合会
連絡先
志津南市民センター
(公民館) 563-6206

減災シンポジウム in 立命館大学BKC



シンポジウムでの講演に耳を傾ける参加者

要援護者避難支援制度を発足 全国初、FM電波で緊急放送も

年齢や常に介護を必要とする人、外国人など災害時に第三者の支援がなければ避難できない人(災害弱者)を対象に自助、共助、公助三位一体、つまり行政、町内会、自主防災組織、民生委員などが一体となって助け合う制度を築こうというものです。

市は現在、登録申請書の配布を進めており、7月から9月にかけて学区ごとに、市、町内会、社協、民生委員ら関係者が集まって進め方について協議することになっています。同時に市は、災害発生時やその恐れがある時に周知するため「市内一斉緊急放送システム」を構築する計画を進めています。これは全国初の試みで、公園や学校など市内80カ所に高さ15

m、4個のスピーカーを備えた塔を設置、「えふえむ草津」の電波を使って地震速報や避難情報、ライフライン情報などを流そうというものです。設置場所を決めたあと、夏ごろから順次着工、12月には完工させ、来年1月から運用を開始する予定です。参加者はこうした減災対策の説明に熱心に耳を傾けていました。

災害による被害減少を旨として立命館大学と協働して減災対策に取り組んでいる草津市は6月13日、「減災シンポジウム in 立命館大学BKC」を同大学プリズムホールで開催、その成果を地域住民に紹介しました。

志津南自主防災連絡会(結城隆之会長)はこのシンポジウムを先の防災懇談会に続く防災研修の一環と位置づけ、町内会長、

防災部長らが参加、防災意識の向上に役立てました。



シンポジウムでは「地震災害・豪雨災害に備えて」と題して深川良一教授が、災害に弱い地盤や危険な住宅地などへの認識を促したあと、今年4月に立命館大学が市に提案した「草津市災害時要援護者避難支援制度」について、峰島厚教授がその目的と内容を紹介しました。同制度は、ひとり暮らしの高

社協が活動計画策定

志津南社会福祉協議会は昨年一年間をかけ、少子高齢化や核家族の進展、暮らしの変化などに対応した地域福祉活動を推進していくための「志津南地区住民福祉活動計画」"写真"をまとめました。

活動計画は「楽しく暮らせる、老いても健康な生活できる子どもたちがいきいき活動し

ている」の視点から地域づくりを目指しています。活動の推進にあたり、まず高齢者などの声を聞く生活実態調査アンケートから取りかかり、実態に即した対応を考えていきます。また日常生活におけるきめ細かい福祉活動が行われるように福祉委員制度の設置なども進めていく方針です。

地域の福祉活動は「地域の各種団体ならびにボランティアの皆さんによる地道な活動」と「住民みなさんの理解と支え」の二つにより推進されます。この二つの力の支えがあつてこそ社会環境の変化に対応した福祉

チケット販売、17日まで

夏まつり実行委員会は7月24日開催の「ふれあい夏まつり」の模擬店チケットを7月14日から17日の4日間、市民センターで販売します。

当日の現金販売は数量に限りがありますので事前にお買い求めいただくようお願いいたします。

ニユースポ大会盛り上がる 過去最高の170人が参加



志津南地区体育振興会（山根祐樹会長）は6月27日、志津南小学校体育館で幼児から高齢者までの幅広く楽しめる第4回ニユースポ大会を開催、過去最高の170人が参加しました。写真。

開会式、全員参加による準備体操、注意事項等の説明のあと、デイスコンとビーチボールに分かれて競技を開始しました。デイスコンは、赤と白の2チームに分かれ、1チーム（3人）が1人2回ずつ計6枚の円盤を投げ、どちらが黄色のポイントに近づいているかを競うもので、小学生から超高齢者まで楽しめる競技。大人が小学生に負けて悔しがるなど終始熱戦が繰り広

げられました。

ビーチボールは、男女各2人、4人1チームで行います。ボールは柔らかいのでつき指などの心配はなく、誰でも安全かつ容易に行え、初心者から上級者まで楽しめるものです。

参加9チームで予選リーグを行い、勝ち上がった3チームが決勝リーグでVリーグ顔負けの熱戦が繰り広げ、1ポイントごとに大きな歓声が響き大変盛り

上がりました。成績は次の通りです。

- デイスコン
 - 志津南リーグ
 - 優勝 岡本西A
 - 準優勝 3丁目E
 - 3位 6丁目D
 - 準優勝 3丁目J
 - 3位 1丁目L
 - ビーチボール
 - 優勝 岡本西
 - 準優勝 6丁目
 - 3位 8丁目
- (体育振興会)

若寿会が優勝飾る

スポレク祭デイスコンで

第13回草津市民スポーツレクリエーション祭りが6月13日、草津市立野村運動公園市民体育



デイスコンで優勝した若寿会

館で開催されましたが、雨のため体育館で学区対抗種目のみ行われました。

小雨の中、大縄跳びに出場する志津南小5年、松尾一篤君（若草8丁目）の力強い選手宣誓の後、競技が始まり、志津南地区からデイスコン2チーム、大縄跳び2チーム（子ども会）が出場しました。今年から新しく競技種目になったデイスコンには若寿会、若草フレンズが出場、2チームとも素晴らしいチームワークで決勝に残り、若寿会

は優勝、若草フレンズは三位に輝きました。「ミスもなく、お互いに声を掛けあい、作戦を練るなど、楽しく競技ができた」と出場者は満足そうでした。また大縄跳びには、子ども会

いきいき百歳体操開講



高齢者のリクリエーションとしてこの日、草津市主査木村さん、インストラクターの野田さんの指導を受け開講しました。市内では大変好評で現在24のクラブが活動しており、志津南地区は25番目のクラブとして発足

一斉清掃で町はすっきり

地域恒例の夏の「一斉清掃」が7月4日午前8時30分から、若草中央公園、東公園、西公園、



清掃に汗を流す参加者（東児童公園）

南市民センターに飾っています。お立ち寄りの際にはご覧下さい。スポレク祭開催までの準備当日のお手伝いに協力いただいたみなさん、参加チームのみなさん、ありがとうございました。しました。頑張ってください。後、毎月4回の講座を予定しており、広く地域の高齢者の皆さんのご参加をお待ちします。問い合わせは志津南市民センター（電話）563 6206まで。

岡本奥山児童公園や各町内の児童遊園を重点に行われました。参加した住民約810人がカマや剪定ばさみ、竹ぼうきを手に各班の持ち場に散り、生い茂る雑草や低木の剪定、ごみの撤去に汗を流しました。同10時頃には所定の集積場に「刈り草」の大きな山が築かれました。おかげで志津南一帯はスッキリ。

前日の雨降る中、一部機械刈りをしてくださったボランティアの方や当日ご参加の方、本当にお疲れさまでした。（福利環境部）



- 7月16日(金) 第2回セラバンド講座 10:00~12:00
- 7月17日(土) 健康ウォーキング 8:15 若草中央公園集合
- 7月22日(木) 第3回セラバンド講座 10:00~12:00
- 7月24日(土) 社会奉仕 8:30 若草中央公園集合 第13回ふれあい夏まつり 17:00~21:00 若草中央公園一帯
- 7月27日(火) 地域サロン: 懐メロを歌う会 10:00~11:30
- 8月6日(金) 定例健康相談日 9:30~12:00 市健康推進課 ぶれあい昼食会 12:00~13:00 ボランティア「泉」
- 8月7日(土)~8日(日) 南っ子宿泊体験 12:30~翌日15:00 健康ウォーキング 8:15 若草中央公園集合
- 8月10日(火) 地域サロン: 懐メロを歌う会 10:00~11:30
- 8月25日(水) やすらぎ学級 13:30~17:00
- 8月28日(土) 人権講座・第三講座 19:00~
- 毎週金曜日 ぶれあい喫茶(お茶の間) 10:00~12:00 若草第五集会所

印の場所は志津南市民センター(公民館)です

出発前に公民館でホタルの話聞くこどもたち



はじめに市民センターで「草津でホタルを楽しむ会」の鈴木さん、菊池さん、からホタルについての話を聞いたあと、秋山さんの手作り紙芝居、クイズ、折り紙を楽しみました。写真。

折り紙では一生懸命かわいいホタルを折り、暗やみでも光るシールをお尻に付けました。ライトを当てると

ホタル狩り楽しむ

「わんぱくプラザ南っ子・地域協働合校」の恒例事業「ホタルに会いに行こう」が6月12日若草地区の伯母川で開かれ、小学生とその保護者、子ども会役員、地域の協力者らあわせて約120人がホタル狩りを楽しみました。

親子で楽しくおやつ作り



おやつ作りを楽しむ親子

ぼんやり光り、本物のホタルのようで見んな感激。暗くなった頃、伯母川に本物のホタルを探しに出かけました。昨年より多い約60匹のホタルが見つかり、手に取って観察し、

そのあと来年も観察できるようにそと逃がしました。あちらこちらで光りながら飛び交う様子は心を和やかにし、環境保全の大切さを私たちに伝えてくれるようでした。

志津南地区健康推進委員連絡協議会は民児協子育て支援と共催で6月15日、「親子で楽し

くおやつ作り」講習会を実施しました。写真。

講習会は子育てグループ「たんぼクラブ」(代表・井畑和子さん)の要望で実施したもので、親子11組(13人)がエプロン、三角巾スタイルでおやつ作りに挑戦しました。子どもたちはお母さんと並んで調理台代わりに置かれたテーブル上の材料を前に説明を聞いてとりかかりました。

この日のメニューは 蒸しパン3種(ウインナー入り・コー

ロク八公園で弁当を広げる参加者



志津南地区健康推進連絡協議会は6月3日、健康ウォーキングを実施しました。

「回覧を見ました」とご夫婦、お友達など地域の方々16人が午前10時にロク八公園を目指し市民センターを出発しました。

ロク八まで健康ウォーク

このあと、蒸しパンができるまで、フェルトパネルによる食事のバランス、指遊び、また大きなワニさんの口を使い歯磨き

の大切さなどを学んでもらいました。

「出来上がりしましたよ」と、自分の作ったおやつが運ばれてくると笑顔がはじけました。「とてもおいしい」「毎月でも」「幼稚園に行っている子どもも参加させたい」などの声が聞かれました。これからも食に関する知識や関心を多くの方々に広めて行きたいと思っています。(健康推進員)

青空のもと、かがやき通りをくだり1時間弱で現地に到着。公園内では草津市発行のウォーキングマップに沿って30分余かけて歩きとても気持ちの良い汗をかきました。

まわりは目にしみる青葉、さわやかな風に心も癒され、大樹のもとで輪になってお弁当を広げ和やかに会話も弾み楽しいひと時を過ごしました。写真。

そして15時に全員市民センターまで完歩帰着。

今年の一つの方針として運動の面にも力を入れて行きたいと思っています。次回には更に多くの皆様のご参加をお待ちしています。

(健康推進員)



時計台

古くは「鐘の鳴る丘」のトンガリ帽子の時計台、札幌の時計台などなど、「時計台」という言葉にはなんとなくロマンチックな響きがある。

だが昔は時を知らせた時計台も今はファッションブルな町のランドマークだ。ジョギングする人、散歩する人が木立越しに見上げる立命館大学の時計台。緑豊かなキャンパスを行き交う学生たち。こんな風景に昔を重ね合わせるのはいかに?



認知症サポーター養成講座開く

認知症を理解し適切な接し方を学んでもらおうと、志津南市民センター(公民館)は6月18日、同センターで認知症サポーター養成講座を開催しました。写真。あいにくの雨模様で、参加者は7人と少々さびしい講座となりましたが、認知症サポーター

キャラバンメイトさんから認知症ともの忘れの違いなどの話を聞くとともに、DVDを見ながら認知症の方への接し方などを勉強しました。講座を通して、認知症は病気であり、その人たちがどんな気持ちで日々暮らしているのか、一人だけの問題としない思いやる大切だということを知りました。講座終了後、参加者は「認知

症サポーターの証」としてオンラインジングを受け取り、みんなが安心して暮らすために、地域で自分たちができることをしようという思いを強くしています。

宿泊体験募集

志津南地区地域協働校推進委員会は次の要領で「南っ子宿泊体験2010」実施します。ふるってご参加下さい。

- 主催 志津南地区地域協働校推進委員会
- 日程 8月7日(土)～8日(日)の2日間
- 内容 オリジナルメニューの献立作成から買い物・調理・後片付け。プラネタリウム観賞、宿泊体験、立命館大学キャンパス探検ツアーなど
- 対象 小学4～6年
- 定員 20人(先着順)
- 参加費 1,500円
- 申込 所定の用紙で、参加者本人が申し込んでください。
- 7月17日(土)～7月24日(土) 17時まで市民センターへ事前説明会を行います。

折々の記

今年も、市民センターの庭にゴーヤーの苗が植えられた。成長は驚くほど早く、今や人の背丈を越える勢いである。最盛期には自然のグリーンの日よけとなり、サロンの南側に日陰を作ってくれる。すだれなど日光が当たるとそのものに熱が蓄積されるが、ゴーヤーのよ

ゴーヤーの知恵

状の物質は大変甘い。今度は、色

は、葉からの蒸散作用により、熱がたまず、心地よい陰を与えてくれるという。そういえば、テントの下の陰より、木陰の方がさわやかな清涼感を与えてくれる。そう感じているのは私だけではない。雨など一度に種が流されて名を「にがり」といい、名前通り実は大変苦い。ゴーヤーの好きな人に言わせるとこれが夏の暑さを吹き飛ばす苦みであるとのことである。しかし、これはゴーヤーを食べている人間の側からの話であり、ゴーヤーの方から言わせると事情は少し違うようだ。ものの本によると人間が食べ頃としている時のゴーヤーは、実の中の種を守る目的で自身を苦くし、緑色を保つことにより、苦みと葉の保護色で虫や鳥から身を守っているのだという。このゴーヤー、収穫せずにそのままにしておくとは鮮やかなオレンジ色、実の中は赤いゼラチン状となり、この中に種が包まれる。しかもこのゼラチン

(忍びの者)